

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	13-310	慶應義塾大学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Gabapentin versus chlordiazepoxide for outpatient alcohol detoxification treatment. 外来患者アルコール解毒治療のためのガバペンチンとクロルジアゼポキシドの対比		
<b>執筆者</b>		
Stock CJ <sup>1</sup> , Carpenter L, Ying J, Greene T.		
<b>掲載誌</b>		
Ann Pharmacother. 2013 Jul-Aug;47(7-8):961-9.		
<b>キーワード</b>		
アルコール離脱、ガバペンチン、ベンゾジアゼピン		
<b>要 旨</b>		
<p><b>背景</b></p> <p>ベンゾジアゼピンはアルコール離脱 (AW) を治療するために用いられるが、認知障害、鎮静と運動失調を引き起こし、アルコールと相互作用をする。非ベンゾジアゼピンの抗けいれん薬は、AW の治療薬として有望でありかつより安全な代替となりうる。</p> <p><b>目的</b></p> <p>Epworth Sleepiness Scale (ESS)、Penn Alcohol Craving Scale (PACS)、運動失調評価、Clinical Institute Withdrawal Assessment for alcohol revised (CIWA-Ar) の症状を継続的に測定し、ガバペンチンまたはクロルジアゼポキシドでの治療にランダム化されたアルコール依存症患者で比較検討した。</p> <p><b>方法</b></p> <p>無作為二重盲検試験は、アルコール離脱 (DSM-IV 基準) した米国在郷軍人に施行された。入院を必要とする、あるいはベンゾジアゼピンまたは非ベンゾジアゼピン抗けいれん薬を服用している被験者は除外された。26 人の参加者はランダム化された：17 人はガバペンチンを服用し、9 人はクロルジアゼポキシドを服用した。ガバペンチンの用量は経口的に 1200mg を 3 日間であった。そして、900mg、600mg と 300mg と 1 日毎に減量した。クロルジアゼポキシドは経口的に 100mg を 3 日間投与し、75mg、50mg と 25mg と同様に減量した。CIWA-Ar、ESS、PACS 尺度と運動失調のための評価は、毎日行われた。</p> <p><b>結果</b></p> <p>引き続いての ESS と PACS の平均スコアは、早期治療期間 (1-4 日) に治療群の間に有意差がなかったが、治療終了時の期間 (5-7 日) は、ガバペンチン治療群で低かった (平均差 -3.70;95%CI-7.21~-0.19;p = 0.04) (平均差-6.05;95%CI-12.82~0.72;p = 0.08)。CIWA-Ar スコアは、両群で同様に低下した。運動失調は、観察されなかった。有意な有害事象はみられなかった。この研究の限界は、サンプルサイズの小さいことと治療期間の終わりに 35%が追跡調査できなかったことにある。</p> <p><b>結論：</b></p> <p>アルコール離脱の症状の外来での在郷軍人において、ガバペンチン治療は、クロルジアゼポキシドの治療と比較して、鎮静 (ESS) の有意な減少がえられ、治療終了時のアルコール渴望 (PACS) が低い傾向があった。小さいサンプルサイズであることによって限界はあるが、眠いことの減少とアルコール渴望の減少が示唆されたことにより、ガバペンチンがより大きなサンプルで検討されるべきことを正当化する。</p>		